

幾恒乳幼児の栄養不良地域介入プロジェクト

～ 中華人民共和国雲南省 西市 ～

石原 紀美子¹ 李 燕² 牛島 廣治¹

1 . 東京大学大学院医学系研究科発達医科学教室

2 . 雲南省婦幼保健院

要旨

雲南省 西市で行われている幾恒乳幼児の栄養不良地域介入プロジェクトは現在介入段階にある。中国語識字率が約 20%と言われている幾恒住民に対して各種の情報提供手段が使用されているが、母語での情報提供の必要性が強調されるなか、幾語で作成された栄養指導 VCD は、そのニーズを満たす可能性がある点で期待できる。同じ国に居住する異なった民族において、母子の健康問題にどう取り組んでいるかの一例として紹介する。

．緒言

幾(たい)恒は中華人民共和国(以降、中国と略す)の代表的な少数民族の一つである。雲南省 西(るーしー)市において、幾恒の乳幼児栄養不良に対する介入方法を探るための基礎調査が、2000 年末終了した。現在は、介入群に対して現地スタッフが教育などの介入を行っている。スタッフは大多数が漢族である。同じ国に居住する異なった民族において、母子の健康問題にどう取り組んでいるかの一例として紹介する。

．背景

中国は広大な国土を持つため、各地域において自然風土、文化、習慣などさまざまな特徴を持つ。雲南省

は中国の南西部に位置し、ミャンマー・ラオス・ベトナムと国境を接しており、大部分が標高 2000m前後の高原である。また、経済産業面で豊かな地域と貧しい地域との格差が際立つ中国国内において、後者に属する地域である。調査地である 西市は、省都昆明市よりさらに約 800 km 西方、西南から西北に至る地域がミャンマーと国境を接している徳宏州にあり、雲南省の代表的な少数民族である幾族の村々が集落する地域である。

中国全体でみると、1990 年世界子どもサミット後の 90 年代児童発